

云々、尤奇怪、仕所并掃部寮進御座已下疊等、廳進御帳帷御几帳等如例、女官并宮侍著衣勤雜役、母屋不懸壁代、夏季不懸之例也。

〔明月記〕建仁三年四月一日、日蝕現了。○中今日更衣之儀、人々案不同云々、不可有不審歟。二日、昨日入夜可更衣御裝束、由俄有沙汰、諸國難濟、大略今朝改之云々、

建曆三年四月一日壬申、今日實時中將著染重束帶參内云々、是宿老者所爲歟、壯年近將尤不可、然後日聞、或識者達云、上官職事之外、近代不著之云々、近代何代乎、足爲奇、文治建久之比、自他大略著之、依如此說出來、末代彌衰微歟。三日、少將退出云、今日侍從參内著染重云々、更衣之後、三四日之内、猶不甘心事也、不具之令然歟。

〔大江俊矩公私雜日記〕文化十二年四月一日丙辰、更衣卯刻、予參勤、出納代山科長門守生直以下諸司五六輩參仕申、屆議奏卿加勢廣幡中如例令奉仕了、辰刻過退出了、

〔年中恒例記〕四月朔日 從今日五月五日迄、裕を著也。

〔殿居囊武家年中行事〕四月朔日 五ツ時のしめ、裕、麻、今日を足袋不用、

〔德川年中行事四月〕朔日

一月次御禮在之、熨斗目、裕、麻、上下。○中

一今日を殿中足袋不用

〔幕朝年中行事歌合上〕十七番 左 更衣

今朝よりは夏にあはせのころもがへ是もあづまの手ぶりなりけり。○中

更衣は京都には此日よりひとへの衣を用ふ、こゝには旬などいふ事もなし、唯裕のしめにかざる計也、是よりは束帶衣冠のをり、單の袍を著す、

〔碧山日録〕長祿三年四月一日癸丑、俗自此日不綿、故訓四月一日之字、讀爲綿拔朔也、